

くにたち しらべ



NO. 21

発行日 2016 年 11 月 1 日

編集＝くにたち地域資料ボランティア

発行＝くにたち中央図書館

テーマ

『 国立に残る古い建物(歴史的建造物) 』

1. はじめに

国立の街を歩くと新しい建物ばかりでなく古い建物に出会うことがあります。

中央線の開通した大正15(1926)年ころより国立駅周辺は発展してきましたが、甲州街道沿いの谷保天満宮のように平安時代にまで歴史をさかのぼることのできるものもあります。

私たちの街をより深く理解するために、どのような古い建物が残っているか、またそれらを保存するにはどのようにしているのかを調べてみましょう。

2. 文化財とは

「文化財」という言葉を聞いたことがあると思います。文化財は、私たちの国の歴史、文化などを理解するために今日まで守り伝えられ、未来に残す貴重な国民共有の財産です。これを守るため、文化財保護法という法律ができました。この法律で取り上げられている文化財の種類には、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、伝統的建造物群、埋蔵文化財、保存技術があります。また文化財は保護の対象となるには指定を受けなければなりません。このため特に価値の高いと認められるものを指定し、保護していくのが指定文化財制度です。その後より多くのものを保護するため、制約の少ない文化財登録制度ができました。このため郷土の歴史を知るために重要な文化財が広い範囲で保護されるようになりました。

では、国立市にはどのような指定文化財や登録文化財があるのでしょうか。今現在(2016年3月)115点もの文化財があります。(別紙参照)中には非公開のものもありますが、今回は皆さんが比較的簡単に見ることのできる歴史的建造物を紹介します。

3. 市指定有形文化財 建造物

市の指定有形文化財の建造物には次の6点があります。

①谷保天満宮 本殿 ^{ふむねふだ}附棟札^{注1}

本殿は、三間社流造で寛延2(1749)年に上谷保村の佐伯源七により建築されました。桁行三間(5.4m)、梁間二間(3.6m)、6坪(約20平方メートル)の母屋の前に一間(1.8m)の^{ひさし}庇をつけたものです。

屋根は母屋の^{きりづまづくり}切妻造^{注2}がのびて庇に続き、長く緩やかに流れるような曲線となっています。外側は日光東照宮のようにきらびやかな極彩色が施されていたことがわかりました。

②谷保天満宮 ^{はいでん}拝殿



拝殿は、^{いりもやづくり}入母屋造^{注3} 22坪(約73平方メートル)で、嘉永4(1851)年に建築されたと考えられています。昭和48(1973)年に屋根を改修しました。初詣や受験シーズンには多くの参拝者でにぎわいます。

③南養寺 ^{なんようじ}本堂

南養寺は禅宗・^{りんざいしゅう}臨濟宗の寺で14世紀頃作られたと伝えられています。

現在の本堂は、文化元(1804)年に造られています。昭和56(1981)年の修理時、^{かやぶき}茅草から^{どうぶき}銅草に変えられており、禅宗の客殿型本堂として、当市における貴重な建物です。本尊は^{しゃかによらいざぞう}釈迦如来坐像です。

④南養寺 ^{だいひでん}大悲殿

「十一面千手観音坐像」(市指定有形文化財・彫刻)を安置するため、享保3(1718)年に^{こんりゅう}建立したものと伝えられています。

⑤南養寺 ^{そうもん}総門

安永9(1780)年、大工佐伯源太によって建築されました。形式は^{やくいもん}薬医門^{注4}で屋根は^{きりづまづくり}切妻造の^{どうぶき}銅草です。

⑥南養寺 しょうろう
鐘楼

天明8（1788）年に建立されています。
四本柱形式で、屋根は入母屋造で銅葺です。
大正14（1925）年の関東大震災による被害修復時
に、茅葺からトタン葺に変えられ、さらに昭和56（1
981）年の修理によって銅葺に変えられています。



4. 国登録有形文化財 建造物

国の登録有形文化財の建造物には次の6点があります。

①一橋大学 かねまつ
兼松講堂

昭和2（1927）年に大正12（1923）年の関東大震災によって神田一橋か
ら国立に移転して以来、東京商科大学のシンボルの建造物です。鉄筋コンクリ
ート造2階建てで、正面に校章を掲げています。

②一橋大学 もんえいじょ
旧門衛所

東京商科大学の門衛所として昭和6（1931）年
に建設されました。2つの校門の間、キャンパス
の中心軸線上の緑地帯にあり、図書館に向き合っ
て立っている木造平屋建てのおしゃれな洋風建築で
す。



③一橋大学 東本館

大学通り東側のキャンパス地に、東京商科大学の商学専門部本館として昭和4
（1929）年に建設されました。ロ字形平面鉄筋コンクリート造2階建てで、兼松
講堂と似ています。

④滝乃川学園 本館



滝乃川学園本館は、日本最古の知的障害児者のための教育実
践の施設として、創立者の石井亮一により、昭和3（1928）年
に現在地へ移転・新築されました。学園内には礼拝堂と亮一
の妻・筆子の愛用品であった「天使のピアノ」も現存し、知
的障害児福祉の貴重な歴史遺産として注目されています。
本館は、ホテルの飛ぶ矢川のほたり近くの木造のモダンな近

代建築です。平成21（2009）年には保存工事が完了し、美しい姿がよみがえりました。

現在では、かつての教室は学園と亮一・筆子夫妻を紹介する展示室として、講堂はコンサートや講座の会場として、住民や福祉教育者との交流の場として、活用されています。

⑤ 本田家住宅 主屋 しゅおく

江戸中期までの本田家は、馬の調教、あるいは獣医を家業とし、幕府や広島藩に勤仕するほどの家柄でした。その後、漢方医に転じ、代々名主や年寄りとして村政に携わりました。

主屋には、ダイドコロの西側土間部分と、表にヒロマ・ナカノマ・デイ、裏にカッテ・オヘヤ・オクの東側床上部分があり、都内では六間型形式の最古の住宅と考えられます。

※ショインの柱に打たれた祈祷札きとうさつ注5には、享保16（1731）年の銘があります。

⑥ 本田家住宅 薬医門

江戸後期に建てられたものですが、甲州街道拡幅に伴い、昭和5（1930）年に現在の場所に移築されました。

一間薬医門、切妻造銅板葺です。屋敷の門構えとして、武家屋敷に匹敵する格式をもつもので、旧家の表門にふさわしい大型の薬医門です。



5. 市登録有形文化財 建造物

市の登録有形文化財の建造物には次の5点があります。

① 青柳稻荷神社 本殿

青柳は、その昔、現在の府中市本宿の多摩川南岸の青柳島にありました。寛文11（1671）年多摩川の大洪水により青柳島は流失し、一時四ツ谷村に避難した後、現在地に移住し、青柳村を開拓しました。

青柳稻荷神社は、青柳・石田の鎮守です。

本殿は一間社流造いっけんしゃながれづくり注6のこけら注7葺きで、建築年代は宝暦5（1755）年です。

拝殿は入母屋造で建築年代は19世紀中頃です。

②滝乃川学園 礼拝堂

滝乃川学園礼拝堂は、昭和3(1928)年に学園が西巢鴨村から谷保村に移転した際、本館建物とともに建設されました。

ロマネスク風注8の簡素な礼拝堂であり、都内でも最も古い時期に属する鉄筋コンクリート造の建物の一つです。

③谷保天満宮 末社注9 巖島神社 附棟札

谷保天満宮末社巖島神社本殿は、元は石神にあったものを、明治期に現在の地に移したものです。

建築年代は、本殿脇にある石燈籠建立年代の宝暦9(1759)年頃と推定され、一間社流造、鉄板葺きの小規模な建物ですが、天満宮本殿と同じ大工により作られた可能性が高いとされています。

④谷保天満宮 神楽殿 附棟札

本神楽殿は、菅公千年式年大祭注10を記念して、大鳥居と大灯籠等と共に明治35(1902)年拝殿と対面した位置に建造されました。それ以前の神楽殿は、拝殿に向かって右手に建っており、附の棟札はこの旧神楽殿のものであります。

⑤旧日本興業銀行クラブハウス注11

国立の開発が進んだ昭和3(1928)～5(1930)年に作られた和洋折衷の建造物です。建設当初は日本興業銀行がクラブハウスとして利用していました。当時の建造物として市内に現存するものはごくわずかです。

※現在、非公開です。

⑥滝乃川学園鐘楼 附鐘



昭和4(1929)年11月3日に完成した鐘楼です。鐘は青銅製で、学園では今も礼拝の10分前に必ず鐘が鳴らされています。同じく谷保にある南養寺の鐘と共に、地域の時を刻む鐘として親しまれています。

6. その他

①旧国立駅舎

三角屋根で市民に親しまれた旧駅舎は市指定文化財ですが、中央線三鷹―立川間の連続立体交差事業で取り壊される事となり、平成 18（2006）年に解体作業が行われました。主要部材は立体化事業完了時に再建が可能なように国立市で保存されています。

②古民家（旧柳澤家住宅）

古民家は江戸時代から使われていた農家ですが、所有者の柳澤勇一郎さんが国立市に寄贈したため移築し復元したもので、市指定有形文化財（民俗）に分類されています。

7. 終わりに

国立市は面積が全国で4番目の小さな市ですが、様々な歴史的建造物がありますね。普段何気なく歩いている街の中にある古い建物を訪ねてみることで、郷土への理解がより深まるのではないのでしょうか。また、別紙の文化財一覧表を参考にして皆さんの身の回りにある建物以外の文化財を探すのも面白いでしょう。

8. 注

- 1 附棟札：建物をいつ誰がなぜ作ったのかを書いて棟木に打ち付けた札を棟札といい、附とは「付いている」ということ
- 2 切妻造：棟を境として両方に流れるような形の屋根のこと、ちょうど本を半分開いて伏せたような形
- 3 入母屋造：上部は切妻造で下部は寄棟造（四つの流れを組み合わせた屋根の形）
- 4 薬医門：切妻造の屋根を持つ門
- 5 祈祷札：祈祷とは神仏に祈ることでそれを書いた木片のこと
- 6 一間社流造：正面の柱の間が一つの神社などの作り方のこと
- 7 こけら：屋根を葺くのに用いるヒノキ、マキなどの薄板のこと
- 8 ロマネスク：11～12世紀中ごろにかけて西ヨーロッパ諸国に行われた建築、彫刻、絵画の様式のこと
- 9 末社：主な神社に付属する小さい神社のこと

- 1 0 菅公千年式年大祭：菅公とは菅原道真を敬う呼び方、千年式年大祭は亡くなつて千年経ったことを記念して行われた祭のこと
- 1 1 クラブハウス：いろいろな共通の目的によってできた団体の会員の集まる建物

9. 参考資料 []は中央図書館の請求番号です

- ・ 国立市公式ホームページ
 - ・ 国立市史 上 中 下 [10/B1]
 - ・ わが町国立 [10/B1]
 - ・ くにたちの歴史 [10/B1]
 - ・ こども風土記 ー国立むかしむかしー [10/B1] [23]
 - ・ 谷保から国立へ [10/B1]
 - ・ 谷保天満宮物語 [10/D9]
 - ・ くにたち史蹟案内 [10/C6]
 - ・ くにたち歴史探訪 [10/C6]
 - ・ くにたちの文化財 [10/C7]
 - ・ 国立市文化財保護の手引き [10/C7]
 - ・ 地域資料 くにたちしらべ (3 南養寺 6 谷保天満宮)
 - ・ くにたちの生活便利帳
- * くにたち図書館のホームページにある「くにたちを知る本」のリストから色々な資料を探すこともできます。
- * 別紙は国立市内の指定・登録文化財の一覧表です。

国立に残る歴史的建造物

- 市指定文化財
- 国登録文化財
- ◎市登録文化財

